

事業コード	H17-建-終-14		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	緊急地方道路整備事業		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築 (バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(一) 土淵杉山田線		担当課長名	中山敏夫
箇所名	大仙市福部羅		担当者名	主幹(兼)班長 水木清博
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H09 ~ H14 ( 6 年)		総事業費	13.8 億円	国庫補助率	5.0/10
事業規模	○延長L=2, 772m 幅員W=12.0m (3.50-1.25-6.00-1.25)					
事業の立案に至る背景	○本路線は旧協和町と旧西仙北町を結ぶ幹線道路であり、地域間交流及び通勤等の日常生活を支える重要な生活道路であるとともに、大曲仙北地域から秋田空港へのアクセス道路の一部を構成している路線である。しかし当該区間は小・中学校への通学路であるが、人家連担地において幅員が狭く(W=3.0m) 屈曲部(Rmin=12m)の多い道路のため、交通安全及び通行上支障となっている。また、平成9年に開通した広域農道(出羽グリーンロード)と連携を図る建設施行区間であり、今後交通量の増加が予想されていることから、交通の安全・円滑化を図り、地域の活性化を促進するため道路整備を行ったものである。					
事業目的	○安全な生活環境の確保(通学路の歩道未整備箇所の解消) 歩道なし ○地域づくりの支援(大型車のすれ違い困難箇所の解消) 車道幅員3.0m ○道路の防災対策・危機管理の充実 路肩幅員0.5m					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			当初計画 ①	最終 ②		最終コスト比較 $C②/C① = ( 1.07 )$  最終費用便益比 $B/C = ( 1.53 )$
	事業費		1,291,000	1,378,000		
	経費内訳	工事費	815,000	870,000		
		用補費	307,000	327,000		
		その他	169,000	181,000		
	財源内訳	国庫補助	645,500	689,000		
		県債	613,000	654,000		
その他		0	0			
一般財源		32,500	35,000			
事業内容		用地補償費改良工	用地補償費改良工			
事業終了後の問題点	○軟弱地盤対策について、工法変更等が必要となり、工事費が増額となった。 ○建物補償の対象件数が増加したため、用地補償費が増額となった。					
住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ○ 一般県民 (時期:平成17年 10月) ②満足度把握の方法 ● アンケート調査 ○ 各種委員会及び審査会 ○ ヒアリング ○ インターネット ○ その他の方法(具体的に ) ③満足度の状況 ○当該区間を利用する地域住民から、道路整備により特に冬期交通や歩行者の安全の確保がされた旨の意見があった。					
上位計画での位置付け	○県の主要プロジェクトである「地域内道路ネットワーク・生活圏交通の整備」の位置付けあり。					
関連プロジェクト等	○地域振興プロジェクトである「地域内外との交流・連携を強化する道路整備」の位置付けあり。 ○広域農道(出羽丘陵2期)					

前回評価結果等	選定または継続      改善      見直し      保留または中止 指摘事項 なし																												
	指摘事項への対応 なし																												
事業効率把握の手法及び効果	<table border="1"> <tr> <td>指 標 名</td> <td colspan="4">県道の路線改良率</td> </tr> <tr> <td>指 標 式</td> <td colspan="4">規格改良済延長 / 管理延長</td> </tr> <tr> <td>指 標 の 種 類</td> <td>成果指標</td> <td>業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>有      無</td> </tr> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td colspan="2">66 %</td> <td rowspan="2">データ等の出典</td> <td rowspan="2">総合計画H15目標 道路統計年報H15現況</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td colspan="2">67 %</td> </tr> <tr> <td>達成率 b / a</td> <td colspan="2">100 %</td> <td>把握の時期</td> <td>平成17年 10月</td> </tr> </table>	指 標 名	県道の路線改良率				指 標 式	規格改良済延長 / 管理延長				指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無	目 標 値 a	66 %		データ等の出典	総合計画H15目標 道路統計年報H15現況	実 績 値 b	67 %		達成率 b / a	100 %		把握の時期	平成17年 10月
	指 標 名	県道の路線改良率																											
	指 標 式	規格改良済延長 / 管理延長																											
	指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無																								
	目 標 値 a	66 %		データ等の出典	総合計画H15目標 道路統計年報H15現況																								
	実 績 値 b	67 %																											
	達成率 b / a	100 %		把握の時期	平成17年 10月																								
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由  																													
具体的な把握方法と効果（見込まれる効果）      データの出典含む  																													

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 結 果
有 効 性	住民満足度の状況 A      B      C 住民アンケートにおいて、特に冬期間の安全な交通の確保や歩行者の安全性が確保されたという意見が多く出された。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上      B 達成率80%以上100%未満      C 達成率80%未満 当該事業は計画通り進捗し、あきた21総合計画の県道改良率目標を上回った。	C
効 率 性	事業の経済性の妥当性 A      B      C B / C は 1 . 5 3 となっており、事業の経済性においては妥当である。	A
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上      B 縮減率20%未満      C 縮減なし -	C
総 合 評 価	A ( 妥当性が高い )      B ( 概ね妥当である )      C ( 妥当性が低い ) 計画に沿って着実に事業が進捗し、地域住民の交通安全確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

## 終了箇所評価判定点検表

( 様式 8 - 1 )

### ( 1 ) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度の状況	a 住民満足度を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1				
		c 住民満足度を把握していない	0				
	二 事業目標の達成状況	a 達成率が100%以上	2	2		B:有効性はある (1~3点)	
		b 達成率が80%以上100%未満	1				
		c 達成率が80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	費用便益比	a B/Cが、国庫補助採択基準がある場合はそれ以上その他の場合は1.5以上となっている	2	2	A:効率性は高い (2点)	
			b a、c以外	1			
			c B/Cが、1.0未満	0			
	二 コスト削減の状況(費用便益比が算定できない場合)	a 当初と比較して最終コスト削減率が20%以上	2	0		B:効率性はある (1点)	
		b 当初と比較して最終コスト削減率が20%未満	1				
		c 当初と比較して最終コスト削減率がなし	0				
計			2	2		A	

### ( 2 ) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		